

まちの新たな活力 ～地域おこし協力隊OBからのメッセージ～

近年の台風などによる自然災害、感染症の流行により「必ずしも都会の生活ばかりが良いとは限らない」と気付かされた人が増えたのではないのでしょうか。今こそ私たちが地方への移住を提案する好機であると考えます。行政だけでなく一般町民ができることもあって、一つは離れて暮らす家族に呼び掛けて、きっかけをつくることだと思います。もし希望していると分かれば、県や町に移住を手助けしてもらいましょう。最近さまざまな制度があり、支援を受けることができます。

私は協力隊をきっかけに新聞販売店を引き継ぎ、町在住7年目になりました。その間に結婚して長女が産まれたので、この町で家族ができたことに感謝しています。

これからの時代は、さらに地方移住が注目され、安心な暮らしができる地域が求められるのだと思います。

私も地域の一員として、安心して暮らせる地域づくりに協力していくので、皆さんもできることから取り組みましょう。



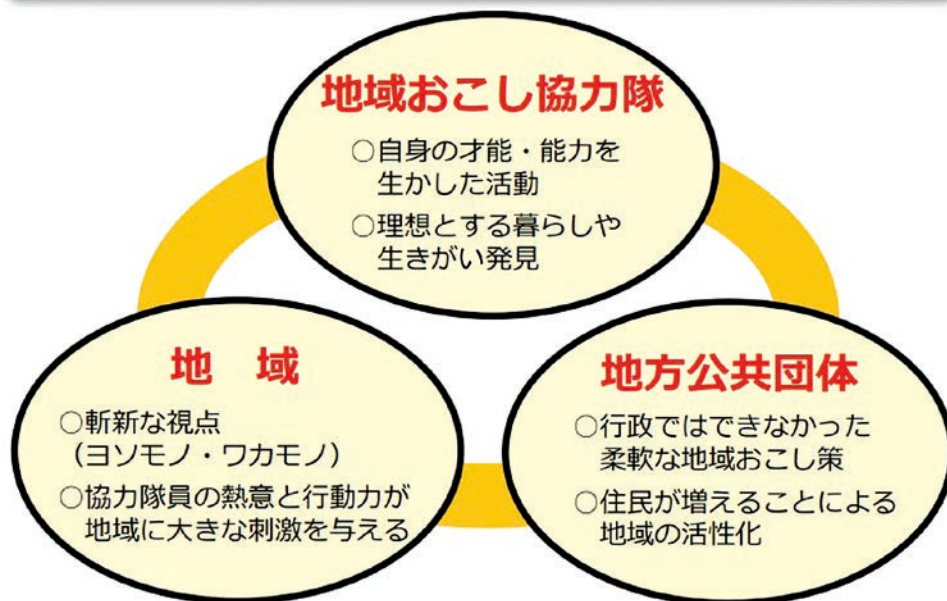
古崎泰介さん

平成26年6月から平成29年5月までの3年間、小野町商工会を拠点に活動しました。

家族構成：3人家族
現在の職業：新聞販売業

地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～



まとめ

人口減少や少子高齢化対策を含め、これからの地域は、住民と行政が当事者意識を持ち、互いに手を携え「協働のまちづくり」に取り組むため、「内からの変化」と、近隣市町村や関係団体との連携や交流人口、関係人口との交流を深めるための「外からの変化」が必要です。

これら内外両面の変化を車の両輪のごとく進めることにより、地域力を向上させ持続可能な町づくりを推進します。

